
第19回 福祉のまちづくりモデル地区推進部会 議事録

平成28年3月22日(火) 14:00～ 15:30 浦和区保健センター

出席者 :若林(部会長)、上松、小川、川津、平林、星、星野、三橋

関係団体職員:神宮(さいたま市社会福祉協議会)、菅原(さいたま市社会福祉事業団)

事務局 :西澤、田村、春山、田井(福祉総務課)

※敬称略

- 【次第】 1 開会
2 議事
(1)平成27年度さいたま市福祉のまちづくりモデル地区推進部会 活動報告について
(2)平成28年度モデル地区推進事業(案)について
3 その他
4 閉会

【内容】

1 開会

会長 あいさつ(省略)

(1)平成27年度さいたま市福祉のまちづくりモデル地区推進部会活動報告について

事務局 参考資料1～2の説明(省略)

2 議事

・ふれあい学習について

事務局 資料1～2の説明(省略)

若林部会長 ふれあい学習についてご意見はあるか。

川津委員 確認したい事がある。去年の9月17日、ふれあい学習で、子供達が学ぶ時間が足りなかった。教えた事があつたが省く、という事があつた。子供達も勉強したい気持ちがあつたと思うが、申し訳ないが、そのまま終わってしまったという事があつた。それは反省し、来年度に関しては35分ではなく、もう少し延ばして50分くらいあれば、講習も体験も十分に指導することが出来ると思う。来年度は時間を延ばすことを検討していただきたい。もう1つは、狙いなのだが、子供は狙いが分かっていなかったようなので、前もって子供達が狙いを理解できるように、先生から、聞こえない、見えない、車いすなどの体験があると、事前に話していただければ、子供も分かったうえで、スムーズに伝わるのではないか。

若林部会長 アンケートの中で、地域の方や保護者が見学に留まっている、とあつたが、私もそう感じた。参加できる体験学習があるといい、という事だが、具体的に進めることは可能か。

事務局 まずは当日、ふれあい学習が始まる前に、事務局から当日の流れについては地域の参加者に説明はしていたが、配布した資料に、体験して欲しいとか、大人の参加を促すとかなかったのが、大人も参加していただきたい旨を追記する。また、当日の皆さんの協力が必要だと思うが、また、大人に対しても話を振ってもらおうとか、そのようなことが必要になると思われる。

星委員 川津委員の、講師の側の話は、その通りだと思う。私はよかったと思ったのは、先日まとめて体育館で、皆で発表するという機会も設けたのは、非常によかったのではないかと思う。

26年度の大宮北小の時には、そこまで踏み込まないで終わってしまった。そういうのからすると、今回生徒がいろいろとアイデアを出したりしてまとめて発表した、というのは非常によかったと思う。ただ、出来るだけ多くの生徒に参加してもらおう趣旨から、3～4名の1グループの1人が発表するのに、いろいろ経験して、言いたいこともたくさんあるが、非常に時間が短くて、聞く方もグループ数が多いので、全部聞けなくて、せっかくのいい機会が。今後はこういうやり方を考えた方がいいと思う。あとは、生徒がいろいろ出したアイデアが共通している。これを集計して、結果を共有できるのが、いいかと思う。

事務局 このモデル地区推進事業は、総合学習の時間を利用して取り組んでいる。ただ来年度はこのコマ数が削減されることとなっているので、時間をどこまで確保できるのか学校との調整が必要と思われる。今回の学習発表会については、学校主導で生徒に教えてもらったので、もう少し学校と連携して、生徒の学習の取組など情報をもらって、こちらでレジュメを作成したいと思う。

若林部会長 多分、学校の意図は、全員に話をさせることだったので、必ず具体的な成果というよりも、1人でも自信を持って話をしてもらおう、という事だったのかと。そういう意味ではどなたかにまとめて、というよりも、やり方としては有りかと。学校の考えもあるかと思うが、今後ご検討いただきたいと思う。

小川委員 私も、小川さんと一緒に歩いて、つい視覚の方へ目が行くが、生徒たちがどんな意見を持っていたのか、もう少しまわりたかった。本当に素晴らしいアイデアもあった。他の知的や車いすの方も聞いてみたかった。そういうのを、学校でまとめてもらえないかと思った。

事務局 先生と打合せの際に、狙いなどについては話したところだったが、どういう方法で進めていくかを重点的に話していたので、まずはモデル地区事業の目的、各段階を進んでいくことの意義、こちらを先生と話して、かつ子供達にも伝えていただきたい、という事の説明が足りず

反省している。

若林部会長　　そうですね。どんな方がバックアップしてくれるのか、という事を、参加者の体制も含め、事前に調べてくれたら、と思う。

・まち歩き学習について

事務局　　資料1、1-2の説明(省略)

若林部会長　　まち歩き学習について、ご意見はあるか。

星委員　　質問。けやき広場の方も歩いたのですよね。発表会の時でも、神田小の周辺と感じが違う、という感想を言っていた生徒も多いと思うが、その辺は聞いているか。

事務局　　新都心見学について、学校の先生にどんな出来だったか聞いた。神田のまちと新都心では、バリアフリーの状況が大きく異なっていたと、子供達が言っていたと聞いている。休みの日に、子供達が新都心へ行くことがあるが、バリアフリーについて意識しながら歩くという事はなかった。今回、きちんとテーマを設定して、バリアフリーを意識して歩くと、配慮されていたことがこんなに多くある、と体験したと聞いている。

若林部会長　　子供達と一緒に歩いたご感想等あれば。

川津委員　　10月7日のまち歩き、私は欠席したが、代理が2人参加し、話を聞いた。内容、とてもよかったと思う。しかし、狭い道などの危ない場所とか、なかなかコミュニケーションが出来なかったということだった。聞こえない、見えない、車いすだとか、見て不便がわかるような事、場所も、交通量が多くて危ない場所があったので、いくつか重要箇所を選んで話し合いが出来れば、講師としていくつかまとめたうえで話せたのではないか、という意見を聞いた。また、逆に子供の方から、ここは不便だとか、改善が必要だとか、という事をまとめて自治会などに要望をして出す取組はどうだろうか、という話も聞いた。

小川委員　　取組の姿勢がとてもよい。一緒に歩いていても、教えたとおりに杖をついて、真剣にやる。終わったあとの生徒の感想は、「段差が怖い」だった。道路が盛り上がり下がり、普段全然関係ないところでも怖かった、という話が出た。真剣に取り組んでくれているんだ、と思った。

事務局　　25年度を取組は、人数が結構多かったこともあり、ただ歩くだけで、何の役割も持たない子供も見受けられた。その反省を踏まえ、大宮北小の時から児童一人一人について必ず役割を設定するようにした。

星野委員　　学習の方は、知的を理解してもらえという、話を聞いてもらえる機会があるが、まち歩きは知的障害の体験グッズがある訳でもないし、当事者も学校等で連れてくるのは難しい。あ

とは親の気持ちで見せ物にしたくない、という事もあり、本人を連れてくるのはかなり難しい。以前、事業団の方が連れてきてくれた事もあったが、育成会からは、本人を連れてくるのはかなり難しい、との事。体験は、まち歩きをしているときも、車いすの体験とか一緒になったりすると、そっちの方がわかりやすい。なかなか知的はわからない。なかには問題なく歩く子もいるし、1人では厳しいので介助者が一緒というのもある。本当は、その辺の当事者の声言えたりとかすれば、また違うのかもしれない。まち歩きは、どう参加してよいか難しい。今後の課題かと思う。

若林部会長 私も障害者の介助をすることがあるが、障害者になったつもりとは違う。まち歩きはある種疑似体験。

事務局 過去の取組で、知的障害のグループと歩いた際に、育成会の方から話があったのは、信号などの場面で、青なのはわかるが、どちらの道路に対してなのかがわからない、という話を保護者からしていただいた。知的障害者にとっては、どう映っている、というような事を伝えるのが難しい。

若林部会長 信号が赤でも青でも必ず止まる。止まって次に変わるまでを確認する。そういう個人差というのがあるので難しい。

星野委員 なかなか難しいとは思いますが、知的なら知的だけのグループだったらいいが、車いすの体験と一緒にになると、どうしてもそちらへ行ってしまうので、私たちの待遇もまだまだである。生徒も、どこでどう聞いたらいいのか。一緒に体験だと、車いすばかりになってしまう。

若林部会長 どうしても時間の中で回ることが優先されてしまう。知的の方はある程度時間の余裕やリズムが違うということ、どうやってわかってもらえるか、と思う。

・学習発表会について

事務局 資料1、1-2の説明(省略)

若林部会長 自分がなつたとか、隣人に当事者いたとか、想像することが大事。今回、発表の形式を3人1組で、というやり方は学校が考えたのか。

事務局 はい。

小川委員 今まで学校の周りを歩いたことはあったと思うが、学校のまわりと新都心の違いを今回初めて経験したと思う。やはり先生方の取組が生徒の気持ちを吸い上げて、そのように持って行ったのかわからないが、先生の姿勢も違うな、という感じを受けた。なので、全部見られなかったのが残念。

若林部会長 新都心の中はバリアフリーを普及させるための施設がある。それがうまく連携できた。そう

いうものが引き続きあるとよい。生徒の発表のなかで、頭上の障害物というのを何人か話していた。まち歩きをしていて、どんな経験があったのか。

小川委員 トラックのミラーが顔にぶつかる、という事がある。一番怖いのは、雨の日にすれ違う人の傘が、身長によって目にくる。何回かぶつけられたことがある。

星委員 新都心に行ったときに、生徒たちと歩き、最後の発表会で、飛行機が飛んでいてよく聞こえなかったのだが、始まりと停止線の区別がよくついて分かった、という意見があった。やはり新都心へ来てよかった、と思った。神田を歩いていると、今まで気づかなかった段差がある。そういう段差をなくしたい、と言っていた子がいた。また、曲がり角で車や自転車が来ているのかわからない。その場所にミラーを設置してもらった方がいいのではないかという意見があった。ずいぶん考えてくれていると思った。

若林部会長 発表でも、提案まで考えてくれるのはいいこと。

(2)平成28年度モデル地区推進事業(案)について

事務局 資料2の説明(省略)

若林部会長 内部障害については団体等と呼ぶのか。

事務局 講師については、まだ見当はついていない。

若林部会長 まち歩き学習の実施場所が学校周辺から通学路ということだが、わかりやすいが大変ではないか。

事務局 一部分を歩く。大宮北小や神田小のように、学校周辺のまち歩きと伝えてあるので、コース設定はおおきな変更はないと思う。通学路ということ进行全面に押し出すことで身近なものということをPRできる。

若林部会長 ふれあい学習の学習数は、学校の方で考えているのか。

事務局 学校から、何日間設定するとは聞いていないが、1日1コマ、1日2～3コマ、まだ悩んでいる。

若林部会長 実施計画を学校が作成したとの事だが、植水はあるのか。

事務局 まだされていない。

若林部会長 保護者や地区の方への呼びかけは、神田小の場合、学校から？

事務局 学校から。

若林部会長 地区社会福祉協議会の方から、関心の度合いを深めてもらうとか、そういう働きかけはやっていただけるのか。

事務局 社会福祉協議会と協力して、自治会や民生委員、地区社会福祉協議会等にご理解いただ

く。

川津委員 さいたま市福祉のまちづくりモデル地区推進部会だが、1年間に1回、学校へ行ってふれあい学習、まち歩きを行ってきたが、市教育委員会の方も、出来れば今度、会議に来ていただいて、内容をしっかりつかんで、学校との連携をしていくのもいいかと思う。できれば教育委員会の方にも来ていただくことも検討してもらえたら。

以上